



RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2009-2010 年度 No.12

〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

[inashor@athena.ocn.ne.jp](mailto:inashor@athena.ocn.ne.jp)

2009-2010 年度 会長 齊藤 彰、幹事 坂井 彦就

2009-2010 年度 RI テーマ



「ロータリーの未来は  
あなたの手中に」

(ジョン・ケニー会長)

## 例 会 記 録

### 第 1 4 9 4 回例会

平成 2 1 年 1 0 月 1 4 日(水) 三楽園

1. 点鐘 齊藤会長
2. ソング 四つのテスト
3. 会長の時間 台風 1 8 号の被害は大丈夫でしたか。当  
リンゴ園では少し色付きはじめた青いりんごが多数  
落果しました。食べられないことはありませんが商品  
にはなりません。天日によって少し色をつけることも  
可能のようです。安価な未熟果には注意してください。
4. 幹事報告
  - ・ 南砺 R C から 10 月 3 1 日桜が池で研修会、出  
席依頼。
  - ・ 地区ガバナーから 地区大会のお礼。
5. 出席委員会 23 名中 13 名出席 7 6. 4% (調整後)
6. ニコニコ B O X (河合 S A A : 本日 4 名 4,000 円)
7. 卓話 「ドラマ戦場のメロディから」  
担当 小西 勝会員



本年 9 月 1 2 日フジテレビで、終戦直後、歌手渡辺  
はま子が歌った一つのメロディが多くの日本兵の  
命を救った実話を放映していました。その一端を紹  
介して、命の尊さと歌の持つすばらしさを振り返っ  
てみましょう。

- 1 昭和 1 9 年から昭和 2 0 年に、フィリピンにおいて  
日本軍が約 5 0 万人戦死するという太平洋戦争最大  
の激戦が行われた。奇跡的に生き延びて捕虜とな  
った者、復員しても G H Q に逮捕された者など 1 2  
5 名がモンテルパ刑務所(フィリピン)に収監され  
死刑宣告を受けていました。  
昭和 2 4 年、フィリピン共和国キリノ大統領は、  
死刑執行を命じ一晩で 1 4 名を処刑し続けていま  
した。キリノ氏は日本兵に妻と子供 3 人が殺され、  
多くの国民も虐殺されたことから日本に対する憎  
しみは相当激しいものがあつた。
- 2 死刑執行に立ち会っていた教誨師加賀尾氏は、一  
刻も早く救済してほしいと政府に要請したり、フィ  
リピン政府や各国首脳に嘆願しましたが功を奏し  
ません。また、死刑囚に生きる希望を失うことのない  
よう励まし続け、歌も作らせた。そこで作ら  
れたのが「ああ、モンテルパの夜は更けて」とい  
う曲でした。
- 3 昭和 2 7 年 5 月、この歌詞、音符が歌手渡辺はま  
子に届き、自費でレコード化しました。当時、はま  
子は、これまで戦意高揚のために数多く歌を歌って

戦争に協力したのですが、返って戦死者を出す結果に心を痛み、歌を止めようと消沈していた。しかし、モンテンルパの歌に出会い、フィリピンへ渡航して、みんなを励ましたい。心からこの歌を歌おう。やはり歌手を続けようと立ち上がった。

- 4 国交断絶の世界情勢の中での渡航は困難を極め危険を伴うものであった。はま子は、何とかビザを取得してモンテンルパへ渡った。少しでも旧日本兵を喜ばせようと、何度も衣装を代え、「浜辺の歌」「荒城の月」等多くの歌を歌った。この時のはま子と合唱した日本兵の歌声、感激の様子が加賀尾氏の「祖国日本の皆様、家族の人たち、苦しい辛い思いをしてこられたでありましょう。今、しばらくの間待ってください。そして、祈ってください。祖国の土を踏むまでは決して力を落しません！」というメッセージとともにテープ録音された。

その後、はま子は日本に帰ってこのテープを公開したところ、聞いた人々から、一刻も早く釈放を求める声が日本中に沸き起こった。

- 5 一方、加賀尾氏は何とかキリノ大統領と直接会談できないか外務省を通じて交渉を続けていたところ、昭和28年5月ようやく会談が可能となった。加賀尾氏はキリノ大統領に面会し、何も言わずある物を差し出した。大統領はそのふたを開けると突然音楽が流れ出した。それは、はま子の歌をメロディにしたオルゴールだった。キリノは「悲しい曲ですね、何という音楽ですか?」。加賀尾は「モンテンルパの日本人戦犯が作った歌です」。キリノはメロディをじっと聞き入った。

一ヵ月後、「キリノ大統領日本人戦犯全員に特赦」という特報が日本中を駆けめぐった。

後に大統領は「その音楽が私の琴線に触れた。日本は戦争に負けたとはいえ、かくのごとく巧妙で堂々たる外交ぶり・・・」と褒めたといわれる。一つの歌が一国の大統領の心をつかんだのである。

- 6 昭和28年7月22日、白山丸で全員帰国。横浜棧橋には28,000人の出迎え、その中に渡辺はま子もいた。

「わずか3分間のドラマが人の心を慰めたり、鼓舞

したりするのであれば、体をもって出来ることをしなければならぬ。」 渡辺はま子談

【編集後記】戦後生まれの世代にとって、戦争の悲惨さ、惨状は、映像を見たり話を聞いたりしなければ分からないことが多くあります。貴重な出来事についてご紹介いただきありがとうございます。